



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2022/10/17

バイブルの真実シリーズ

#4「地球が丸いと語っている聖書」
ありえないフラットアース説

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**バイブルの真実シリーズ**第4弾！パチパチパチ！
今日ご紹介するのは、「聖書は地球が球体・ボール状の球形をしているということを語っていた」ということです。



その話に行く前に、つい先日 東住吉キリスト集会で、私も敬愛する安井享さんをお招きして創造論のセミナーを行いました。2回行ったのですが、2本とも YouTube で公開したいと思います。
質疑応答、これが良かったのですが、この部分は非公開とさせていただきます。
その代わりに、安井享さんが翻訳した創造論の本、一般書店では売ってないのですが、ゴフェルトウリープロダクションのホームページに行くと、創造論の分かりやすい解説書が販売されていて入手することができます。

正直言って、これらの本は私のネタ本なんですよ。だから本当は言いたくない。
言いたくないけど、皆様にちゃんと典拠・根拠がある資料ということで、直に読んでいただくのが一番いいのではないかと思って。ゴフェルトウリープロダクション。心から推薦します。
ぜひそこを訪ねてみてください。ネットで検索すると一発で分かります。



さて、なぜ今日のテーマを選んだかという、安井さんの講演会の前後に、集会のホームページにも、私の個人メールアドレスにも、またごうちゃんねるのコメントにも、同じような質問が来たんです。4-5件くらいだったんですけどね。
同じような内容とは「フラットアース説について解説していただけないですか。」

フラットは平面。アースは地球。フラットアース説とは地球平面説。
地球はボール状の球形ではなく、CD や DVD ディスクのように円形だけドペタンコの状態なんだ。
地球はペタンコの円盤状態って、どういうことでしょう。

“平らな大地の上には頑丈なドームがあります” なんてうたっています。



平らな大地の上にはドームがあります



地球は上から見て円だけど平ら。
真ん中の白い部分が北極。
円盤の上を白いものが取り囲んでいますね。これが、人々が南極だと錯覚しているもの。
円盤の周辺には、45メートルの高さの氷の壁がそびえ立っている。地球は、実はまっ平らなんだ。

この考え方に立つ人たちは基本 天動説です。
地球が太陽の周りを動いているのではなく、太陽が地球の周りを動いている。
この考えの方は世界中で増えていて、アメリカではこの国際学会まで開かれているということです。

が、「はあ?!」ですよ。ちょっと待ってと。

この21世紀、宇宙から地球の画像などが送られて来る、論より証拠で視覚で確かめることができる時代に、そんなこと本気で信じてるの?! 本気で信じている方々が増えていると言うのです。

それはトンデモ説ということで、それぞれ自由になさったらいいと思うのですが、厄介なのは、フラットアース説を信じる人々の中に、聖書を根拠に信じる人たちがいるということなんですね。

「聖書はフラットアースを語っている。地球はペッタコのパネル状の平面であると聖書が語っているのだ。」そう信じている方々が多いということで、これは困った問題だなと。

それで、今回取り上げることにしました。

フラットアース論者のことをフラットアースラーと言うそうで、聖書からいくつも引用するのですが、1箇所見て行きましょう。彼らがよく引用するのが**箴言（しんげん）8章27節**。これ以降に天地創造の様子が書かれています。**27節**だけ取り上げて見て行きましょう。

主が天を堅く立てられたとき、わたしはそこにいた。主が深淵の面に円を描かれたとき、

主は創造主。主が天を堅く立てられた。創造主が天（宇宙）をお造りになった。

そして、主（創造主）が深淵の面に円を描かれた。ここから地球創造のことがずっと描写されます。

神は地球を円に造られたと言うんですね。宇宙から見るとどんな画像を見ても円に見えますよ。だから、「球体なんだな」と私は違和感なく読み取るんです。

しかし、「いやいや、円と書いてある。球（きゅう）と書いてない。地球は丸である。だけど球（たま）とは書いてない。地球は円状に造られたとは書いてあるけど、ボール状の球体に造ったとは書いてない。だから、地球はCDやDVDディスクのように丸いペッタコのものなのだ！ 球ではないんだ。平面の円盤なんだ！」

球体ではあり得ないということ、この箇所から言うわけですね。

聖書の他の箇所でも、“地球はペッタコのパネルではなく球体である”ことを物語っているんです。

ヨブ記 38章

4わたし（創造主）が地の基を定めたとき、あなた（ヨブ）はどこにいたのか。分かっているなら、告げてみよ。

9 そのとき、わたしは雲をその衣とし、暗黒をその産衣（うぶぎ）とした。

地球を創造した時、神は水蒸気を地球の衣とし、暗黒を地球の産衣とした。

産衣。日本語では何のことですか。生まれたての赤ちゃんに着せる布、赤ちゃんをぐるぐる巻きにする“おくるみ”のことです。これはユダヤの世界でも、世界中どこでも同じです。

産衣と訳されている言葉のヘブライ語はハトラトゥ（名詞）。

ハタルタやフタルテという動詞が名詞化したものですが、ヘブライ語の動詞は語形変化して、態・完了形など様々なことで語尾が若干変わります。

ハタルタやフタルテが他に使われているのが**エゼキエル書 16章4節**。

おくるみを着せてもらえなかった赤ちゃん、生まれた直後に捨てられた捨て子の赤ちゃんの話です。

エゼキエル書 16 章

4 あなたの生まれについて言えば、あなたが生まれた日に、あなたは、へその緒を切られず、水で洗いよめられず、塩でこすられず、布で包まれることもなかった。



普通はへその緒を切られて、産湯できれいに洗ってもらって、そうして、あったかくて肌触りの良い柔らかな布のおくるみにくるんでもらえる。

写真が出てますが、おくるみってこんな状態ですよ。

赤ちゃん、気持ちよさそうにスヤスヤ眠ってますね。

そのようにされるのが当然なのに、あなたはそうされなかった。

布で包まれることもなかった。包まれるがフタルテです。フタルテはヘブライ語動詞のプアル態で強調動詞。完全に包まれる。包み込まれるというのが原語の意味により近いでしょう。フタルテ（包み込まれる）の名詞化がハトラトゥ。産衣と訳されたんですね。

「神は地球を水蒸気と暗黒で包み込まれた」とヨブ記で書かれました。

ヨブ記 38:9 そのとき、わたしは雲をその衣とし、暗黒をその産衣とした。

水蒸気と暗黒で、地球を包み込むようにぐるぐる巻きにした。

表面だけを被う場合、それは、カバーした・羽織ったということですよ。

生まれたてのベビーを柔らかな布で包み込む。前後左右全体をぐるぐる巻きにする。

その対象が平面なら包み込めないんです。

聖書は地球を円と表現するところもありますが、同時にぐるぐる巻きに包み込まれる対象としても語っている。立体として語っているのです。円が立体化したら球体・ボール状になります。創造主は 3000 年以上前のヨブという人物を使って、地球が球・球体・ボール状のものだと語っていたのです。

聖書は慎重に扱わなければならない部分があると思うんですね。

自分の世界観に合うように読み込んでしまうと、聖書が本来語っている意味が分からなくなるのです。聖書を曲解したり私的解釈することによって、神が分からなくなるだけでなく、世界のことも分からなくなってしまうのです。

聖書は、聖書の解釈原則に則って解釈することが非常に大事なんですね。

「聖書を正確に理解することによって、神と世界のことがますますよく分かって来る」と私自身は考えています。少しでも正確に理解できるために、これからも努力して行きたいと考えていますので、よろしければ今後もお付き合いくださったらとても嬉しいです。

ではまた このチャンネルでお目にかかりましょう。

チャンネル登録もよろしくお願いします。皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。